

① 授業の基本情報（学部・学科、科目名、配当年次、履修者数、オンライン授業形態）

外国語学部開講教養科目 教養科目「異文化コミュニケーション」 2年以上配当

履修者数 76名 オンデマンド資料配信

② 教員の基本情報（氏名、所属）

新井保裕 外国語学部

③（可能なら）学生のコメント

15回目に実施したリアクションペーパーでは授業の感想を求め、授業形態・方法については以下のものが得られた。

- ・授業を受講している他の学生の回答なども面白く、様々な意見があると思われた。
- ・他のクラスのオンライン授業だとあまり他の人の意見を聞くことが出来なかったもので、他の人の意見がたくさん書いてあって、自分は知らなかったことが多かったので勉強になりました。

④ 授業をオンライン化するにあたって心がけたこと（工夫点、苦勞）

教養科目の性格上、多数の受講者が見込まれたため、オンデマンドで pdf の資料を配信する形で授業を行った。資料を繰り返し熟読するよう指示し、1回あたりの資料の分量はスライド 20~30 枚程度となっており、2回の熟読と課題取り組みで対面講義 90分に相当する分量となっている。

（対面講義でも大人数講義はそうであるのだが、）オンデマンド講義は受講者の主体的参加が難しいため、毎回授業内容をもとにした課題を提示し Web フォームで収集の上、提出者名がわからない形で一部回答を次の回の講義で紹介した。また一部講義では学生にアンケート調査を行い、その結果も次回授業内で紹介することで、学生たちが授業への帰属意識を持てるように配慮したほか、他の受講者の意見を知る機会も提供した（他大学の事例や回答を紹介した場合もあり）。これにより、疑似的ではあるが、双方向の授業運営を行った。

⑤ 今後のオンライン授業に向けて

本講義は 2020 年度は 80 名以下の履修であったため、2021 年度は対面での授業実施を予定している。ただし今後の社会情勢や、受講者数増加によってオンライン実施が必要となる場合は、今年度同様の対応を行う。なお来年度は本講義の演習に該当する教養科目も担当予定であり、ここでは受講者たちにグループ発表をしてもらう予定となっている。オンライン実施の場合でも、学生たちにはリアルタイム配信（必要に応じて動画作成を依頼しオンデマンド配信、または資料配信）の中でテーマ報告、中間発表、最終発表をしてもらい、その都度教員よりフィードバックを行う（すでに他大学で実施済み）。ハイフレックス形式の場合も対面、オンライン問わず同様の指導を行い講義形態の違いによる学習の差が出ないように配慮する予定である。